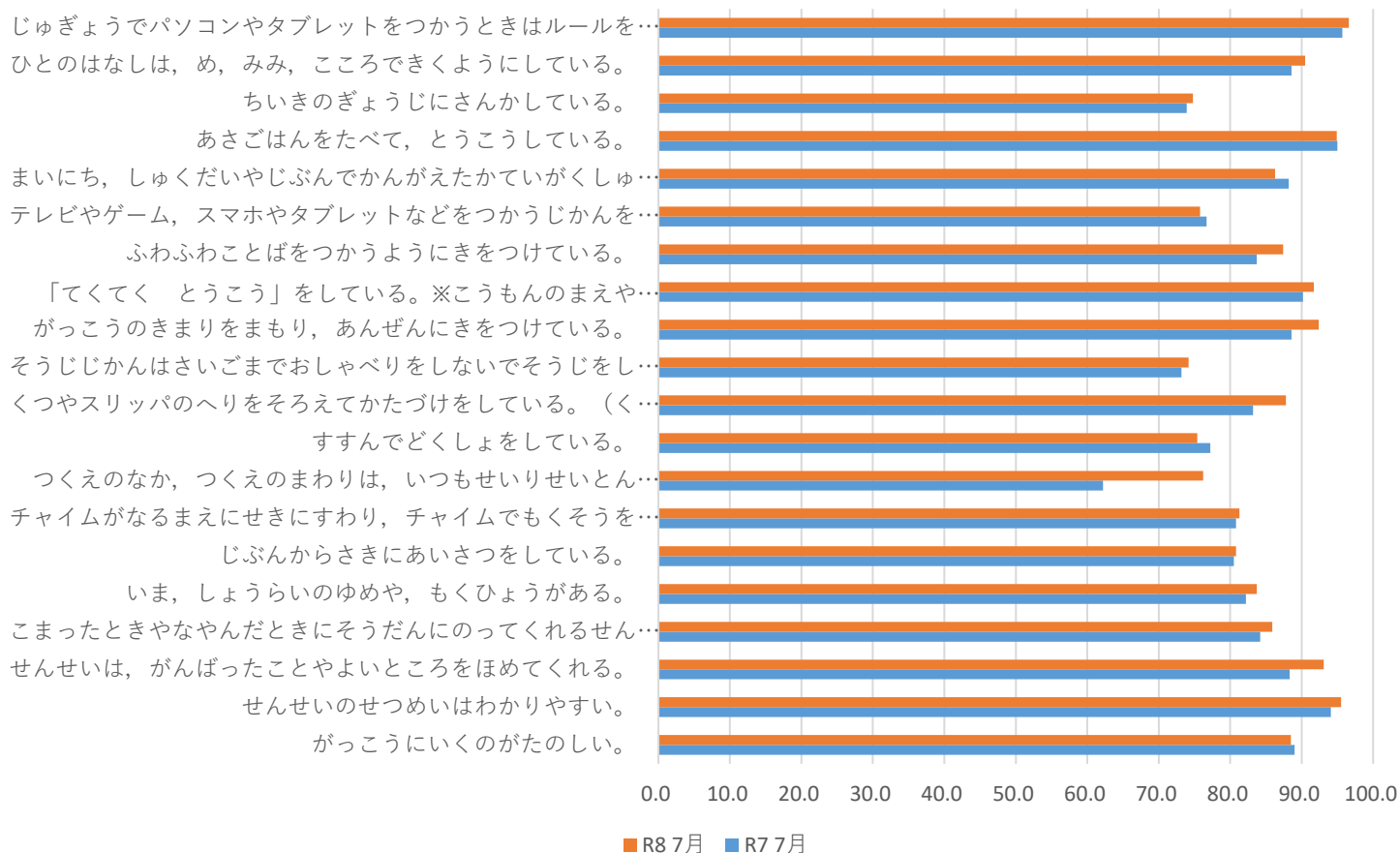


学校評価（児童）566名回答

	観 点	R7 7月	R8 7月	増減
1	がっこうにいくのがたのしい。	89.0	88.5	-0.5
2	せんせいのせつめいはわかりやすい。	94.1	95.5	1.4
3	せんせいは、がんばったことやよいところをほめてくれる。	88.3	93.1	4.8
4	こまったときやなやんだときにそうだんにのってくれるせんせいがいる。	84.2	85.9	1.7
5	いま、しょうらいのゆめや、もくひょうがある。	82.2	83.7	1.5
6	じぶんからさきにあいさつをしている。	80.5	80.8	0.3
7	チャイムがなるまえにせきにすわり、チャイムでもくそうをしている。	80.8	81.3	0.5
8	つくえのなか、つくえのまわりは、いつもせいりせいとん（かたづけ）ができています。	62.2	76.2	14.0
9	すすんでどくしょをしている。	77.2	75.4	-1.8
10	くつやスリッパのへりをそろえてかたづけをしている。（くつばこ・トイレ）	83.2	87.8	4.6
11	そうじじかんはさいごまでおしゃべりをしないでそうじをしている。	73.2	74.2	1.0
12	がっこうのきまりをまもり、あんぜんにきをつけています。	88.6	92.4	3.8
13	「てくてく とうこう」をしている。※こうものまえやがっこうちゅうしゃじょう	90.2	91.7	1.5
14	ふわふわことばをつかうようにきをつけています。	83.7	87.4	3.7
15	テレビやゲーム、スマホやタブレットなどをつかうじかんをきめている。	76.7	75.8	-0.9
16	まいにち、しゅくだいやじぶんでかんがえたかていがくしゅうをつづけている。	88.2	86.3	-1.9
17	あさごはんをたべて、とうこうしている。	95.0	94.9	-0.1
18	ちいきのぎょうじにさんかしている。	73.9	74.8	0.9
19	ひとのはなしは、め、みみ、こころできくようにしている。	88.6	90.5	1.9
20	じゅぎょうでパソコンやタブレットをつかうときはルールをまもっている。	95.7	96.6	0.9

学校評価（児童）



1. 学校の強み（評価が高い点・大きく伸びた点）

① 授業でのICT利用マナーや安全・生活基本指標が高い（維持・向上）

授業でのICT利用（項目20: 96.6%）や朝食摂取（項目17: 94.9%）、授業理解度（項目2: 95.5%）など、90%を超える高い水準の項目が多数ある。

学校の決まりや安全（項目12: 88.6% → 92.4% / +3.8）や言葉遣い（項目14: 83.7% → 87.4% / +3.7）の意識も着実に向上している。

② 教員と児童との信頼関係・肯定的な関係性の高まり

「ほめてくれる」（項目3: 88.3% → 93.1% / +4.8）が大きく上昇しており、先生からの承認やポジティブな働きかけが児童にしっかり届いている。

「説明の分かりやすさ」（項目2: 95.5%）や「相談できる先生がいる」（項目4: 85.9%）も堅調で、安心して学習・相談ができる環境が整っている。

③ 整理整頓や身の回りのマナーに関する劇的な改善

「机の中・周りの整理整頓」（項目8: 62.2% → 76.2% / +14.0）が過去1年間で最も劇的に改善しています。学校全体での具体的な取り組みや声かけの成果が明確に表れている。

「靴やスリッパの整理」（項目10: 83.2% → 87.8% / +4.6）も伸びており、履物・机周りなど「揃える・片付ける」意識が定着しつつある。

2. 学校の弱み・今後の課題（評価が低い点・減少傾向にある点）

① 自律的な学習・読書習慣のわずかな低下

「家庭学習の継続」（項目16: 88.2% → 86.3% / -1.9）や「進んで読書」（項目9: 77.2% → 75.4% / -1.8）がやや減少傾向にある。

主体的に学ぶ習慣や、自主的な読書活動への工夫・動機付けが今後の課題である。

② メディア・スクリーンタイムのルール順守

「テレビ・ゲーム・スマホ等の時間設定」（項目15: 76.7% → 75.8% / -0.9）は、他項目に比べて肯定的回答がやや低く、数値も微減している。家庭と連携した生活習慣づくりが引き続き求められる。

③ 掃除態度や地域行事への参加など「自発的行動」の伸び悩み

「黙動掃除」（項目11: 74.2%）や「地域行事への参加」（項目18: 74.8%）は、全体の中で比較的割合が低く（70%台前半）、前年からの増加幅もわずか（+0.9～1.0）にとどまっている。

④ 「学校に行くのが楽しい」の微減

「学校に行くのが楽しい」（項目1: 89.0% → 88.5% / -0.5）は依然として高い水準（約9割）を維持しているが、わずかに微減している。満足度をさらに高めるための取り組み（行事の工夫や児童の主体性を活かした活動など）の工夫が今後必要となってくると考える。

まとめと今後の方向性

総評: 先生方の温かい関わり（ほめる・分かりやすい指導）や整理整頓・マナー意識の向上など、「安全で落ち着いた集団生活の基盤」づくりは、うまくできているといえる。

次への一步: 今後は、定着してきた生活基盤をベースに、「自主的な読書・家庭学習」や「メディア利用を含めた家庭との連携」、「自発的に掃除や地域活動に取り組む態度」といった主体性・自律性を育むアプローチを強化していくことが必要となってくる。

